

上川管内 校長会	会報	発行 上川管内校長会
		【事務局】旭川市6条通4丁目 上川教育研修センター3F TEL(0166)25-1350 FAX(0166)29-2115
		会長 紺野元樹 編集 広報部
		令和3年度 第3号 (156号)

# 特集 惜別

—退職校長回想集—

## 御礼と感謝

上川管内校長会副会長 **大場 八 仁**  
(鷹栖町立鷹栖中学校)



この3月をもちまして、御勇退されます校長の皆様には、30余年間の教職生活を振り返り、万感の思いを抱いておられることと存じます。永年の御功績と御活躍に衷心より敬意を表します。

今年度は、91名の上川管内校長会会員の内22名が退職されます。退職されます皆様には、これまでに管内教育を牽引されるとともに、いつもの確で温かな御指導を賜りました。皆様が教育現場を去られますことは、心の支えが一つ外れたようであり、後を引き継ぐ者として不安と寂しさを感じております。

御勇退の皆様にとって今年度は、どのような年であったでしょうか。「最後の1年、最高の学校経営を！」との思いで臨まれておられたことと存じますが、コロナの影響は昨年度以上に校長を悩ませるものとなりました。苦心して立てた計画が更に延期や変更を余儀なくされるなど、退職の寂しさを感じる暇もないほど学校経営に御苦労されたことと拝察いたします。しかし、この御苦労は、校長職に徹せられた故の御苦労であり、必ずや満足のいく学校経営につながっていたものと存じます。御勇退の最後の年も、児童生徒や地域のため、そして、管内教育発展のために、私たちの先頭に立ち御尽力くださり誠にありがとうございました。

さて、皆様の多くが教職に就かれた昭和59年・60年頃は、知識詰め込み型教育の弊害や児童生徒の問題行動増加を背景に、「ゆとり」をキーワードとした学習

指導要領（昭和52年改訂）のもと学校教育は進められていました。教師（学校）の創意工夫を加えた学習指導（ゆとりの時間）が展開できるようになり、皆様も児童生徒の教育に情熱を注がれていたことと思います。その後、生活科や学校週5日制、総合的な学習の時間の導入等、学習指導要領改訂ごとの大きな教育改革の中で、校内暴力や不登校、学力低下、モンスターペアレンツ等、社会問題が教育現場で日常化しながらも皆様は解決に向け奔走され、児童生徒の健やかな学びを育む学校をリードしてくださいました。

校長になられてからは、学校評議員会や学校運営協議会（CS）の導入、中体連改革等を推進され、保護者・地域に信頼され開かれた学校づくりとビジョンを明確にしたその学校経営は、管内における学校教育の充実・発展に大きく寄与されました。また、コロナの感染拡大防止を始め、不審者や自然災害、いじめへの対応、教職員の服務規律遵守等、危機や安全の管理、学校の働き方改革やGIGAスクール構想への対応等、新たな多くの学校課題に対し皆様は、冷静かつ組織的に対応すべく、リーダーシップを発揮され、常に子どもたちを第一に考え、教職員と地域を守る学校経営に御尽力されました。皆様が永年にわたり積み重ねてこられた実践は、私たち後輩校長の範であり、管内、そして、北海道教育の誇りです。改めまして御礼と感謝を申し上げます。

私どもは、今後、皆様が築かれてきた「上川の教育」の精神を引き継ぎ、上川の子どものために力を尽くしてまいります。御勇退の皆様には、今後とも上川管内教育はもとより教育界を見守りいただき、私たちに識見に富む指針を与えてくださいますようお願いいたします。

最後に、この春は新たな人生の出発となります。御健康に御留意され、益々の御活躍を祈念申し上げ、惜別の言葉といたします。

# 惜別の言葉

## 人生のターニングポイント

鷹栖町立鷹栖小学校 赤澤 静 恵



自分の人生を考えると、あの時がターニングポイントだったと思います。37年前に教員採用試験と国家公務員の地方中級試験を受けました。教員採用試験に落ち、公務員試験に受かりました。所属先は依頼が来たり、自分で入りたい職場に問い合わせたりして決まります。教員免許もあったので、千歳市にある女子少年院で法務教官になりました。具体的には、義務教育などで中学生に数学と理科の授業を行っていました。女子少年院と聞いたら怖そうな感じがしますが、院内では悪い誘惑がないので、表情も穏やかになり、どの子ども楽しみは食事やレクリエーションなどでした。

官舎は4階建ての4階でしたが、新築の3LDKで家賃も水道代も無料でした。手当が付き、初任としては結構いただいていたと思います。女子少年院なので、職員も若い女性が多く楽しい雰囲気職場でした。仕

事にも慣れ、ここでずっと働くと思っていました。

ある日、宗谷教育局の方から職場に電話があり、追加登録で採用になったから局に面接に来てほしいとのことでした。もうここで正式に採用になっているからと断りましたが、その方は「本当にいいんですか？これを断ったら、先生になれないんですよ。」と話してくるので、気持ちが揺らぎ、面接を受けることになりました。これで、今に至るとなりそうですが、そうではなく退職期間が必要でした。すぐに辞めることができなかったので、教員を諦め、少年院に残ることにしました。しかし、また宗谷教育局の方から電話があり、「揉めたみたいで申し訳ないから、もう一度採用試験を受けてください。」との話でした。再度チャレンジをして今に至ります。あの教育局の方が熱心に勧誘してくれていなければ、今の私はなかったと思います。

当時の同期の職員と、年賀状のやりとりをしていて、途中から音信不通になりました。鷹栖小の校長としてコロナ感染対策の動画が鷹栖町のHPに載ったところ、それを見たと学校に年賀状が届きました。札幌等に転勤して、また千歳市の女子少年院に戻ってきているとのことでした。私もあのまま残っていたら、同じような人生だったのかなと不思議な感じがしました。

## 感謝

上川町立上川小学校 伊端 俊 紀



十勝管内新得町立富村牛小中学校からスタートした教職員人生ですが、採用時に教育局の職員から「トムラウシで本当にいいですね！」と念を押されたことが忘れられない思い出です。当時、離島以外では最高位のへき地4級地（現在は5級地）でした。新得市街地に行くと、往復80kmのすれ違う車がまねな快適ドライブができました。学校では、唯一の戦後生まれ教員で、地域の方々からは、ホームドラマでしか聞いたことがなかった「若先生」と呼ばれ、かわいがってもらいました。そして、3年目には北海道へき地・複式教育研究連盟の全道大会で集合学習の授業を一つ上の先輩と作り上げたことが、その後の授業づくりの財産になりました。その後、一般教諭として十勝管内でもう1校と上川管内の3校で勤務し、教頭で3校、校長で2校、ともに上川管内で勤めることができました。

今、思い返してみると、現在の教職員としての私を

作り上げたのは、この10校で出会った人たちだと強く思います。「若先生」と呼ばれながら、教員としての資質・能力が極めて乏しい新卒時代の自分から、よほどのことがない限り、落ち着いて対応し、的確な判断（※個人の感想です。）ができるようになった現在の自分に成長させてくれたのは、出会った人たちです。子どもたち、保護者の方々、地域の方々、同僚となって働いた皆さんと一緒に仕事をした団体の方からたくさんの刺激や指導・支援を受けました。それは、言葉であったり、表情であったり、後ろ姿・背中であったり、手助けそのものであったり、様々です。今、自分が発する言葉一つにしても、迷っていたときにあの先生がかけてくれた言葉が生かされているということがあります。判断に行き詰まったときに、あのとき見た子どもの表情や姿が解決の糸口になったことも多々あります。このように考えていると、自分は幸せだったとつくづく思います。本当にありがたいことです。しかし、反対に自分が他の人にどれだけ役立てたのかが心許なく、反省しきりです。

最後に、お世話になった皆様に感謝と、自分の微力さのお詫びをして、上川管内校長会の益々の御発展と、会員の皆様の御健勝と御活躍を心よりお祈り申し上げます。

## ありがとうございました

東川町立東川第二小学校 遠藤友文



教員生活3市5町に勤め、それぞれの地で教員として人としての成長とともに、豊かな思い出をもいただくことができました。振り返ると、そこには諸先輩方やともに汗した仲間、保護者や地域の方々とふれあいが

あったからこそその財産であります。

振り出しの頃は、訳も分からずがむしゃらに過ごしている私を育ててやろうと、多くの保護者や地域の方々が声をかけてくださり、また、先輩教師に叱咤激励されつつ、多くの貴重な体験をさせていただきました。

初めの二校は児童数が多い規模の大きな学校でありましたが、様々な規模の学校を体験してきた先輩たちの発言の豊かさを見たとき、自分も大小様々な学校で交互に働きたいと考えるようになりました。そうした思いが叶い、鷹栖の小規模校、旭川の中規模校、旭川の小規模校という順に勤めることになりました。

そうした中、充実した自身の音楽活動を進めることができました。それを音楽指導に生かせるようにと、牛歩の歩みながら自己研究も進めていきました。また、へき地で複式学級を有する学校における集合学習や環境教育に手を染めるようになりました。そこでは、やりたいことを精一杯やらせていただいたという印象をもつほど、当時の管理職や諸先輩方の懐の広さに甘えさせてもらったと感謝しています。

教頭になってからは、保護者や地域の方々とふれあう機会が更に増え、皆さんが「自分の地域の学校が一番」という思いを強くもっていることに気付かされました。地域における学校の重要性を意識すると、その学校に勤める大きな責任感が湧いてきました。

また、それぞれの教育委員会事務局の皆さんと深く関わっていくにつれ、任された学校をより良いものとするだけでなく、教頭会・校長会としてその街の教育を充実したものとするために何ができるのかを意識し、活動しなければならぬと思われました。

今まで私に関わってくくださった全ての皆様に対して、「年を取ることも悪くない」と思えるほど私を成長させてくださったことに、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ありがとうございました

美瑛町立明德小学校 大角勝之



昭和60年から37年の教員生活を過ごしてきました。今思うと、長くて短い37年でした。

初任から3校は、石狩管内の中学校に勤務しました。平成5年に上富良野中学校に赴任し、次の布部中学校と合わせて上川管内で教諭として12年間勤務し

ました。

教頭としての初任地は、日高管内の小学校で、中学校との違いを肌で感じました。閉校業務も経験しました。

上川管内に戻り、教頭として2校経験し、校長として3校を預かりました。

以前から通常学級における特別支援教育の必要性を強く感じていました。年度の重点として推進しましたが、自分も持っている情報は古いと感じ始めました。そこで、月1回の学習会に通うことにしました。ちょうどDSMが変わった時期だったのでタイムリーでした。

特別支援教育を始め、学力向上の取組、コロナ対策、

勤務規律や教育の最新情報など、校長室だよりで発信しました。発行数は十分ではありませんが、その内容に応えてくれた、勤務校の教職員に感謝しています。

校長として最も思い出に残っているのは、令和元年の全日中研究協議会群馬大会での研究発表です。前年に担当が決定してすぐに富良野市の6校の中学校長で研究計画を立て、協力して実践をレポートにしました。さらに、上川管内校長会を始め、北海道中学校長会や全日本中学校長会の様々な御支援を受け、無事に発表することができました。組織で取り組むことの力強さと校長会の結束力を実感しました。貴重な経験に感謝しております。

最後の2年間はコロナに翻弄されました。しかし、校長会の情報交流や教職員の先を見通した取組等を通して、教育活動を見直し改善するきっかけとなりました。

37年間、4市4町1村でお世話になりました。それぞれの地域でのたくさんの素晴らしい子どもたち、保護者、地域の方々とのお会いがありました。また、教職員や関係機関の皆様には、多くの視点と気づきを与えていただきました。大変ありがたく思います。

最後になりますが、管内校長会の皆様には大変お世話になりました。皆様の今後の御活躍と御健康を心から祈念申し上げます。本当にありがとうございました。

## 夢と希望と感謝

東神楽町立東神楽小学校 大橋 昌樹



昭和60年の採用から37年間、教育の仕事が続けることができました。関係の皆様には、心からお礼を申し上げます。

初任地は帯広市であり、過ごしやすい気候やおおらかな風土の中、十勝の教育を学ぶことができました。また、免許が保健

体育であることから、専門外ではありましたが、サッカー少年団にも携わり、社会スポーツの勉強もさせていただきました。3ヶ月間、休み無しという経験もりましたが、今の学校教育で求められている「あきらめずに粘り強く学ぶ」態度を身に付けることができたように思います。いつも市内の新採用の5・6人で飲んだり、食べたり、遊んだりしたことは、忘れられない思い出です。

2校目からは、上川管内の勤務になり、中堅として仕事をさせていただきました。失敗や苦労が多かったように覚えています。子どもたちと気持ちが通じたり、保護者に感謝されたりすることでやりがいを感じ

ることができた時期でもあったと思います。同時に教育を学校教育だけでなく広く考えてみたいと思うようにもなりました。

平成14年より学校・家庭・地域が連携しつつ、子どもたちの生活体験、社会体験や自然体験等を経験させ、自ら学び自ら考える力や豊かな人間性等の「生きる力」を育むため、完全学校週5日制が実施されることになりました。これを機にと、不安はありましたが、社会教育の世界に飛び込みました。青少年教育、成人教育、高齢者の生きがいがづくり、家庭教育と幅広い教育に携わることができました。教科書のない教育ですので、自分で仕事をつくる、何もしないと生徒は来ない等の経験をしました。このときに、経営とは何かという自分なりの考えがつけられたと思います。

平成20年から学校に戻り、運営、経営の仕事をしていただきました。教頭時代は、プレーイングマネージャーとして多忙ながらも充実した日々を送ることができました。校長としては、地域とともにある学校、学校を核とした地域づくり、チームとしての学校に携わることができ誠に幸せなことと、皆様に感謝申し上げます。

結びに、上川管内校長会の益々の御発展と会員の皆様の御活躍を祈念し、惜別の言葉といたします。

## 34年間の教職生活を振り返って

士別市立糸魚小学校 加藤 聖



34年間の教職生活が終わりました。振り返ってみての感想を一言でいうと、「幸運だったなあ」です。もともと教員志望でもなかった自分が、校長まで経験させてもらい、教職人生を終えるなんて、幸運としか思えません。少し出来過ぎで申し訳ない気がします。

今考えると第1の幸運は、教員に採用されたことです。学校に勤め始めたとき、私は学校事務職員でした。毎日職員室で先生方が子どものことを話題にして話すのを聞いていると、自分も「先生」になりたいと思いました。そこから通信教育で教員免許を取り、「先生」になれました。26歳でのスタートでした。

第2の幸運は、周りの方たちにとっても恵まれていたことです。特に、初任の年、学年を組んでいただいたお二人の先生には、たいへんお世話になりました。授業の作り方、担任の仕事の進め方など、教員としての基礎を、根気よく教えてくださいました。その後も、サッカー少年団の指導に夢中になっていた頃には、学

生時代に選手だった方にコーチになっていただいたり、校内研究で困っていた時には、同僚に助けてもらったりました。ピンチばかりでしたが、何とか仕事を続けることができました。他力本願の26歳から48歳でした。

第3の幸運は、管理職を経験できたことです。「目標に向かって、教職員が力を合わせると、学校が変わる。」ということを実感できたのも管理職であったからだと思います。自分一人ではできない仕事ができることに感動を覚えました。また、私の校長経験は2校5年間ですが、最後の5年間の2校とも子どもたちが、毎日楽しそうに登校してくる学校でした。誰に誇れることでもないので、口にすることはありませんが、子どもたちにとって、「行くことがそれほど苦ではない学校であったこと」は、密かな自慢でした。朝、「今日も全員学校に来ています。」の報告を聞くと、とても幸せな気分になります。現在も幸福を感じている60歳です。

短くはない34年間でしたが、運の味方もあって、なんとか乗り切ることができました。これまで、関わっていただいた先輩や同僚、保護者や地域の皆様へ感謝の念でいっぱいです。ありがとうございました。

## お世話になりました

中富良野町立中富良野小学校 金光 保



本年度の4月当初から、いよいよ今年で最後かという思いで勤務を続けてきました。今、振り返ってみると、大変なことも多々ありましたが、様々な人との出会いがあり、総じて楽しい教員生活を送ることができたと感じています。その出会った方々に支えられて今日まで教員生活を続けることができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

私の教員生活は留萌管内から始まりました。新卒の学校は一部複式の小中併置校でした。この学校では、「若いときの苦労は買ってでも…」を身をもって感じる経験をしました。赴任して2年目に、2年後のへき複の全道大会の会場校になることが決まりました。あろうことか新卒の私が研修部を担当することになり、同じく私と同時に赴任した新卒の中学校の研修担当者と共に二人で全道大会に向けての準備を進めることになりました。複式の学級が一部あるとは言え、主要な教科

は中学校からの乗り入れで実施しており、複式での実践がない学校でした。ゼロからの出発、しかも新卒の研修担当。研究大会の前年は、毎晩二人で夜遅くまで準備を進め、帰宅してからも資料作りをする日が続きました。「とんでもない世界に入ってしまった」と正直思いましたが、この時の苦労が後の教員生活に活かされたと思っています。

この新卒の学校を含め、2市6町村で勤務しましたが、どの学校においても、多くの同僚や保護者・地域の方々に支えられてきました。教頭になってからは、校長先生に温かい御指導をいただきました。長い目で見守ってくださっていた校長先生も多かったことだろうと思います。教員生活最後の勤務校となる本校での1年目には、全国初の児童のコロナ感染で社会からの注目を浴びる中、北海道教育委員会や上川教育局の方々から多大な御支援をいただいて対応にあたることができました。また、管内校長会の仕事にも関わらせていただきました。その中でも貴重な経験をさせていただいたと思っています。これからも学校には様々な課題に対応していくことが求められ、大きく変わっていくことと思います。上川管内校長会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝をお祈りいたします。

## 今、思うこと

中川町立中川中学校 菊池 茂樹



私は小学5年生のときに、「将来は教員になろう」と決めました。担任の先生にあこがれて、「こんな先生になりたい」と思いました。以後、教育大学卒業まで、その思いは変わりませんでした。

念願かなって教員となり、最初に赴任したのは十勝管内の中学校でした。ここでの先生方との出会いが私の今を作っていると言っても過言ではありません。新米技術科教師の私に、「なぜドライバー（ネジ回し）を授業で作る必要があるのか」と聞いてきます。「指導書に書いてあるから」と答える私に、「ネジ回しでなければならない理由はあるのか」と問われ、その返答に困ったことを覚えています。今、考えれば、「ものづくり（金属加工）」の基礎を「ネジ回しの製作を通して」生徒に体験させることが重要で、学習指導要領にそのことが明らかにされています。数少ない「技術科教師」の存在理由を先輩から教えていただいた時代でした。十勝では12年間お世話になりました。

その後、旭川市に異動し、大規模校を2校経験させていただきました。この頃は私物のパソコンを職員室に持参して仕事をしていた時代で、職員室内のパソコンのLAN環境を自分たちでつないだりプリンターの設定をして回ったりしました。全道技・家研上川大会の事務局となり、諸先輩の指導を受けながら成功に向け日々奮闘していました。また、高校時代に演劇部だったので、学校祭の演劇指導には自ら立候補し、自分が感じてきたステージでの感動を子どもたちにも味わわせたいと熱中しました。

管理職として3市町11年間、勤めさせていただきました。教頭時代は失敗も多く、お仕えした校長先生方には御迷惑ばかりかけていました。確かに忙しい仕事ではありましたが、一つ終えるごとに感じる成就感も大きく、やりがいを感じました。

最後の勤務校となった中川町立中川中学校は、豊かな自然の中、素敵な子どもたちや熱心な教職員、理解ある保護者・地域の皆様に支えられ、コロナ禍ではありましたが、貴重な3年間を過ごさせていただきました。

教師になろうと決めて半世紀。教師になって38年。たくさんの方々に支えられ、ここまで来ることができました。ありがとうございました。

## 出会いに感謝して

比布町立中央小学校 紺野元樹



新採用の頃から周りの人に助けられてばかりだった私にとって、人とのつながりが制限されたこの2年余りはとても辛いものでした。

私は、離島の焼尻中学校を振り出しに3管内9市町11校に勤務しました。若い頃は少年団活動と宴会にだけ力が入るような教師でした。そんな私でも38年間の教職生活を全うできたのは多くの人の支えがあったからです。20代後半にこんな大失敗をしました。日曜日に学級の子もたち10数名と近くの山へ遊びに行ったところ、危うく遭難しかけたのです。新聞の見出しが脳裏をよぎりました。帰宅予定時刻も大幅に過ぎ、また、子どもも私も漆にかぶれ、みんなに大変な迷惑をかけてしまいました。1軒1軒回って謝罪しましたが、誰一人責める保護者はなく、「先生、気にしないで。『すごく楽しかった!』と子どもが大興奮だったんだから。」と逆に励まされました。涙が出ました。その頃からでしょうか、子どもたちや保護

者を裏切るようなことがあってはいけないと努力するようになったのは。私を育ててくれたのは、紛れもなく教え子とその保護者でした。もちろん、様々な面で指導してくれたり、愚痴を聞いてくれたりした上司、先輩や同僚、力を貸してくれたり、相談に乗ってくれたりした教頭会・校長会の仲間にも感謝してもしきれません。また、校長会の仕事をするようになって、留萌管内で12年間勤務したこと、宗谷管内で教頭を3年務めたことが役に立ちました。そのときにお世話になった人たちと2ブロックの役員として、親しく情報交換をすることができたからです。

自身の受けた温かな支援を、私は他の人に十分お返しできていません。これからも人とのつながりを大切に、いろいろな人を応援していきたいと思います。

管内校長会の合言葉は「愛情と信頼」「研鑽と結束」です。この2年間は研鑽の機会も減り、会員同士の結束が薄れたのではないかと懸念を抱いています。どうかもう一度絆を紡ぎ、管内教育の充実・発展のため一歩前に進んでください。

結びに、上川管内校長会会員の皆様には、大変お世話になりました。皆様の御健勝と管内校長会の益々の御発展を心より御祈念申し上げます。

## 人との関わりの中で

美瑛町立美瑛中学校 鈴木薫



昭和59年、名寄南小学校で期限付き教諭としてスタートし、稚内市、中川町、名寄市、東川町、旭川市、南富良野町、上富良野町、そして美瑛町と3市、5町で勤務させていただきました。大規模小中学校、小規模小

中学校、小中併置校と規模や校種もおしなべて勤務することができました。

38年間の教職を振り返ってみて、今更ながら思うのは、私たちの仕事はつくづく人との関わりで成り立っているということです。教え子、保護者、同僚、教育委員会、業者、地域、そして顧問であった吹奏楽部の様々な外部とのつながりなど、あげると枚挙にいとまがありません。

稚内市から中川町に異動した時に感じた感覚を今でも覚えています。それは、稚内市で勤務した9年間で関わった多くの人たちとの関係をすべて置いてきた寂しさです。知らない土地、知らない人の中で、何か今までまとっていた服をすべて剥がされた寒さ、無防備

さ、不安、そんな思いがしばらく続きました。

教頭は一校の勤務が2、3年です。4回の異動の度に、新しい人間関係の構築に努力し、ようやくできた頃には別れ、その繰り返しです。また、新たに教頭会という組織の一員となり、上川管内教頭会の事務局長、会長も経験させていただきました。その中で、校長会や上川教育局との関わりにも随分と神経を使いました。

私たちの異動は、職場のリフレッシュや互いの成長のためには必要かもしれません。しかし、関係を築いたり保ったりすることは結構骨が折れます。ただその繰り返しの中で私自身も少しずつ育てられ、関わった方々に数え切れないほど支えられてきました。そして校長になり、そうやって作ってきた関係が、再び様々なところで結びつくことも分かりました。

止まることが嫌いな性格ゆえ、38年間走り続けた教員人生もなんとか無事にここまでたどり着くことができました。これまで関わったすべての方々に心からのお礼と感謝の気持ちを添え、筆を擱きたいと思います。お世話になりました。そしてありがとうございました。



## 向っていたのだろうか

当麻町立当麻中学校 竹 森 茂 雄



「おまえは教師に向いているよ」高三の担任の言葉を真に受けて進学した教員養成大学。卒業後、講師を経て中学校で合格。初任校の富良野東中から37年間で管内2市4町8校の中学校で勤務しました。向っていたかどうかは分かりません。ただ、子どもたちと関わりながら、成長させてもらってきたと感じています。

二十数年ぶりの同窓会に招かれたときの事です。この学年は、今ではあり得ないような生徒指導上の問題が頻発し、3年間とても苦労した生徒たちでした。会場に行く前に、老舗の菓子店に寄りました。入店すると、「せんせい！」と、驚きの声。休みが取れず、同窓会をあきらめたとのことで、泣き笑いしながら、近況を教えてくださいました。同窓会では成長した姿に驚くとともに、深夜まで思い出話に盛り上がりました。今思うと、この生徒たちとの3年間があったから、教職への自覚とへこたれない強さをもつことができた

と思っています。

部活動を通して、協働することや意欲を高めるための指導技術、そして、子どものもつ可能性を学ぶことができました。私は専門といえる競技歴がないこともあり、卓球部、羽球部、籠球部、蹴球部、庭球部と異動の度に変わりました。経験がないと分かると中学生はシビアな対応をします。まずルールを覚え、専門家を頼って練習方法を学び、生徒に負けないように自らも練習しました。「自分がもっと分かっていたら」と悔しい思いを随分としました。でも、一人一人の心身の成長と、勝ったときの笑顔は、顧問として大きな喜びでした。

管理職を目指したのは、小規模校での勤務がきっかけです。地域の中に学校があり、素直で純真な子どもたちと学ぶことで、教師としての在り方を見つめ直し、新たなことに取り組みたいと思ったからです。この出会いがなければ、勘違いしたまま過ごしていたかもしれません。管理職として5校でお世話になり、新鮮な学びや多くの出会いがありました。大きな責務を感じながらも、これまで続けていくことができたのは、管内校長会をはじめとする関わっていただいた皆様、そして、子どもたちのおかげです。ありがとうございました。

## 感謝！

士別市立士別中学校 田 中 明 人



昭和59年に旭川市神居中に技術科教員として赴任し、以降下川中・風連中・士別中、教頭として音威子府中・士別南中、校長として再び音威子府小中・士別南中、そして士別中勤務を最後に職務を終えました。

運良く大学卒業後すぐに採用されましたが、教員として右も左も分からなかった私は、最初に赴任した学校で大きな影響を受けたのだと今でも思っています。当時の神居中は1学年10クラスの大規模校で、私は1年8組の担任としてスタートしました。その後、2年担任・3年担任ともち上がって多くの先生方に助けていただきながら卒業生を出すことができました。特に同じ学年、同じ男子バレー部顧問としてお世話になった先生は、私の教員人生を振り返る上で欠かすことのできない方です。38年の教職生活のうち、たった3年間だけでしたがその後の何年分にも匹敵する密度の濃い時間を共有させていただきました。

士別中で1年間の登録残を経た後、音威子府中で教

頭昇任となり管理職としての生活が始まりました。人生初の単身赴任を経験しましたが、それまで部活動に明けくれていた私にとって、土曜日曜のある生活はとても新鮮で快適なものでした。教頭時代に出会った3名の校長から学ぶことは多岐にわたり、私が目指す校長のモデルとさせていただきました。「生徒を守る、教職員を守る、学校を守る」「自分に課せられたミッションを常に考える」「地域との関係を最大限生かす」「学校だけで抱えず、関係機関連携を大切に積極的に推進する」など教わったことは数えきれません。管理職としては士別市で7年、音威子府村で5年という勤務となりました。その間多くの住民や保護者と親しく接する機会を得て良好な関係を築くことができ、学校経営にも大きく活かすことができたため、私にとっては幸運な人事異動をしていただいたと思っています。

管内校長会の役員も6年間させていただきましたが、そんな器でなかった私を、出会ってきた先輩・後輩・同僚・仲間が成長させてくれたものと感謝しています。そして、教職生活に区切りをつけて新たな道に進めることを幸せに思います。今までありがとうございました。

士別中

## 心より感謝して

中富良野町立中富良野中学校 田村圭司



高校2年、父を病気で亡くして、将来のことを考えるようになり、進路を変更し安定の公務員を目指すことにしました。大学は経済的に自宅から通える地元の国立大学。好きなハンドボールができて、学力的にも可能

なところを理由に教育大学を選びました。体育を専攻したのは、「話すのが苦手な自分が教えるとしたら」と消去法で考えての決定で、現実的過ぎる選択でもあり、あまり前向きではない進路選択でした。

大学卒業後、なんとか2度目の採用試験で合格して、最初に赴任したのは旭川の中学校でした。教科指導、担任業務、部活動指導、保護者対応等の基本を学びました。大学で学んだ内容は活用場面が少なく、ほぼ一から学ぶことばかりで、通常の業務だけでも大変でしたが、続けていたハンドボールも地元開催の国体があるため道外遠征や合宿があり、今思うとよくやっていたと思います。ただこの初任でハンドボール以上の「やりがい」を見つけられたことで、今まで教師を続

けてこられたように思います。辛いことも多い中、こんなに「子どもたちの成長」がうれしいものだとは思っていませんでした。

年をとり体育の授業で手本を見せることができなくなり、管理職の道に入りました。それからは「やりがい」に「教職員の成長」も加わりました。また、とてもうれしいことに「成長した教え子との再会」もありました。

海外でガーデニングの勉強をして、地元に戻り農園を作り活躍している教え子。参観日で保護者として立派に挨拶をしてきた、昔は少し手がかかった教え子。保健師として学校の調査や地域のコロナ対応で活躍しているバスケット部部長だった教え子。自分でつくったキノコをお土産に、笑顔で校長室を訪ねてきた農家を継いだ教え子。なんともうれしい限りの再会ばかりでした。

振り返ると、教職の道を歩き、「子どもの成長」や教職員との出会いなど、人との関わりが私の「やりがい」につながり、人生の「財産」となりました。そして今の自分は、子どもや教職員、地域の方々、関係機関など、周りの支えがあってここにいると実感しています。

退職にあたり、今まで支えていただいた皆様、本当に心より感謝いたします。ありがとうございました。

## 最後の1年 ～感謝の気持ち～

東神楽町立東聖小学校 成田光弘



新卒から数えて37回目の4月1日、いよいよ自分にも最後の1年がやってきたと、頭の中で確認してはみたものの、いつもの年と何ら変わらないその1日は、特別な日でも何でもなく、全く実感がわきませんでした。

「そのうち、感傷に浸る日も来るのかな」などと漠然と考えていました。

ところが、コロナ対応は運動会にも影を落とし、35回続けたそれとは形を変え、昨年と同じように学年別の平日開催となりました。振り返ってみますと、いわゆる昔ながらの運動会は一昨年が最後でした。こんなことならあの時、きちんとその感動を噛みしめておけばよかったと、後悔しても後の祭りです。修学旅行は、ゴールデンウィーク明けの感染拡大を見越して、7月に計画。予測が当たり、延期することなく実施することができました。ただし、行き慣れた札幌・小樽ではなく、登別・洞爺方面。最後と言うよりは新鮮さが勝っていました。ウポポイにも初めて入りました。宿泊

研修は、緊急事態宣言のため延期し、10月に実施しました。学習発表会も演目を工夫し、平日に学級ごとで行いました。

毎日、教室を回っていますが、授業には当然のようにタブレットが活用されています。先日、補欠授業に入った時には、教材を準備してもらい、私もタブレット授業デビューをしました。この年になってまだ経験したことが無いことがあるということに、大きな時代の動きを感じます。

今、この原稿を書いているのは11月です。校庭のイチヨウの木もきれいに色づいた葉を落としはじめ、残るは最後の1本となりました。「最後の1葉」ではないですが、いくら鈍感な私でも、周りの景色と残りの教職員生活の期間とを結びつけて考えることがあります。しかし、感傷に浸っている暇はありません。学校には日々解決しなければいけない課題が沢山あります。

この2年間で学校の様子は大きく変わり、思い描いていた最後の1年とは違いましたが、充実し日々を過ごしています。それは、かわいい子どもたち、信頼できる教職員、温かい地域の皆様のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。また、人生の節目節目で、私をこの道に導いてくださった全ての人に、お礼を述べたいと思います。



## ありがとうございました

東神楽町立東神楽中学校 野 宮 勉



授業参観・校舎見回りの合間に、校舎の3階から見える大雪山連峰を眺める生活も、いよいよあと僅かになりました。

昭和59年4月に、胆振の伊達市で高等養護学校の教職員として教職のスタートを切りました。

働き始めたときに、教職員として本当にやっていけるのかどうか、とても心配で心細かったことが今でも思い出されます。そして、生徒理解・生徒の目線で考えることの大切さを学ばせていただきました。

2校目は上川管内のへき地3級の小中併置校での勤務でした。地域との連携の大切さと素晴らしさを感じるとともに、地域にどっぷりとつかった楽しい時間を過ごさせていただきました。このときの経験が、校長1校目の学校経営に生かすことができたように思います。3校目は、全国的に学校が荒れた時期と重なり、同僚性や生徒指導、家庭との連携の大切さを実践的に学ばせていただきました。

教頭時代は、宗谷管内をはじめ3校の学校で勤務しました。教員はもとより、事務、公務補等の職員の方にも恵まれ、小学校での勤務も経験させていただきました。小学校勤務を通して小中連携の大切さを、そして管理職としてチーム学校の重要性を学ばせていただきました。

校長として3校で勤務しました。1校を預かる責任の重大さ、迅速に正しく決断することの大切さ、そして教育委員会を始め、関係機関と確実に連携することがいかに重要であるかを体感することとなりました。

学校経営がいつも順調だったわけではありません。常に問題や課題を抱え、どうしたら学校が良くなるかを模索することが多かったのが事実です。それでも最後まで勤めることができたのは、家庭・地域・関係機関の皆さんが、学校をしっかりと支えてくださったおかげと、心から感謝しています。

最後になりますが、コロナ禍の学校経営にあたり、上川管内校長会の皆様には大変お世話になりました。上川管内校長会の益々の御発展と、校長先生方の御活躍と御健勝を心から御祈念申し上げますとともに、全ての子どもたちの幸せを願っております。ありがとうございました。

## 我が教職32年をふり返って

和寒町立和寒小学校 福 田 孝 夫



私は、大学卒業後、民間企業に6年間勤務、明星大学通信教育部で教員免許を取得し、平成2年4月1日付けで利尻富士町立雄忠志内小学校に赴任しました。稚内からフェリーに乗ったのですが大時化で大揺れ、車酔い

いや船酔いなどしたことがなかったのですが、激しく船酔いしてしまい、とても苦しく辛いスタートとなったことを鮮明に記憶しています。利尻に3年、富良野市立布礼別小学校6年、東神楽小学校6年、美瑛小学校2年、学級担任や教務として経験させていただきました。子どもたちとのふれあいで思い出をたくさん残すことができました。中富良野町立宇文小学校3年、名寄市立智恵文小学校2年、富良野市立山部小学校に2年、教頭として赴任し、校長先生よりたくさんの御指導をいただきました。アンテナを高くして、目配り、気配りをするを学びました。

校長として再び名寄市立智恵文小学校に赴任することになりました。「夢と希望」「笑顔いっぱい

の学校」を目指して、先生方と力を合わせて取り組んできました。最初に取り組んだのは研修の見直しです。仮説検証型から実践重視型に変え、「普段の授業の充実」を最重要ポイントとして取り組んできました。「まずやってみよう」そんな気持ちでスタートしました。当然うまくいきませんでした。先生方にもうまく説明できませんでした。2年後、名寄東小学校に異動となりました。ここでは授業改善のツールとして「授業構想シート」を活用しました。特にアクティブ・ラーニングに重点をおきました。先生方の協力も得て授業改善、アクティブ・ラーニングはかなり深めることができました。授業改善が進み、教師主導から子どもたちの主体的な学びが主流の授業になってくると、子どもたちが変わってきました。自信をもつようになり、学ぶことに今まで以上に積極的になってきました。「笑顔いっぱいの学校」に少し近づいたかなと思っています。最後の4年間は和寒小学校にお世話になりました。すばらしい子どもたちと意欲満々の先生方のおかげで、「笑顔」をたくさん見ることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

長い間お世話になり、本当にありがとうございました。



## 感謝でいっぱい

下川町立下川中学校 藤 弘 のぞみ



よき生徒、よき保護者、よき地域、よき仲間に関われた38年間の仕事を終える日が近づいています。途中、何度も、この仕事は自分に向かないと考えやめようと思いましたが、あと少し、あと少し頑張れば明日が来ると

思いながらの教職生活でした。

生徒との思い出は尽きません。学校を出たばかりで人生を何もわかっていない私を「先生」と呼び懐いてくれた初任校初担任の特別支援学級の生徒たち、陸上部。

ちょっと教職をかじっただけで一人前のような口をきいていたのに、やはり「先生」と呼んでついてきてくれた2校目の生徒たち。初めて卒業担任となり卒業式で氏名を呼ぶことができた喜びは忘れられません。

極小規模校でたった1人の生徒の担任をした思い出。授業が早く進み、またすぐ定着するので、余剰時間で将棋やオセロをしたらこてんぱんに負けました。

これ以上の学級経営はできない、生徒に恵まれた、教師冥利に尽きる、ありがたい、と感じた30代。担任の権限をふるい、当時の学級委員長に無理難題の理想を求めましたが、彼女は立派な教師になって活躍中です。「先生のような社会科教師になりたい」と言ってくれた生徒も他の管内で活躍中です。

年度途中で新任教頭として学校を離れる際に、教務部長や教頭先生に直談判をして送別集会を開き、前倒しで卒業式歌を完成させてくれていた生徒会役員たち、3年生、音楽科の先生。本当にありがとうございます。

そして、何より、私のような者を支えてくださった各職場の教職員、上川管内教頭会・校長会の皆様、教育委員会や地域の皆様、保護者様、関係各所の皆様に心よりお礼を申し上げます。生徒の前で「先生はね」と切り出せるくらい自信をもちたいと思いつつも、ついに一度も言えませんでした。けれども、「この仕事をやりきった」感をもって教職を去ることができることに感謝いたします。教職は私にとって天職でした。

社会の変化が大きいこの時代ですが、皆様には健康に留意され、リーダーシップを発揮されますことをお祈り申し上げます。

## 夢の終わり

当麻町立当麻小学校 布 施 司



38年間の教師生活は、あっという間に終わろうとしています。全校児童数名の極小規模から学年4クラスの小学校、そして中学校も含めて10校に勤務しました。どの学校でも、子どもの明るい笑顔と温かい保護者や同僚

に支えられた幸せな教師生活でした。

30代40代は校務分掌といえば研究部であり、研究会や授業公開が毎年のようにありました。道徳や理科の研究団体に所属し、その仲間と何度も研究授業を繰り返しました。道徳では、資料の扱いや保護者も巻き込んだ学習の在り方について、お互いの実践を何度も交流し、さらによい実践をめざして検討を重ねました。理科でも、教材開発や単元構成、そして何より子どもの考えをどう生かして授業をつくるかについて、夜遅くまで話し合ったり、実験を工夫したりしました。その経験は大きな財産であり、校長になっても道徳や理科の授業をしたときに、子どもが「今日の勉強楽しかった。」と言ってくれたことが心に強く残っています。

また、教科書からはなれた活動も大好きでした。親子行事でスライドガラスを使った万華鏡をつくったり、理科実験クラブでゴミ袋の熱気球を上げたり、大気圧で一斗缶をつぶしたりと「みんなの周りにはこんな面白い現象があるんだ。身の周りの物でこんな面白いことができるんだ。」ということを一生涯懸命に伝えようと思いました。教頭になり公民館の分館主事を兼任したとき、行事のアイデアには不自由しなかった気がしています。

反面、いろいろなことをやってきたおかげで、たくさんの方に御迷惑をかけてきました。研究部長である私の無茶なお願いで授業をしてくれた方、学校にゲストティーチャーとして来てくれた大勢の方、研究大会で発表や司会・記録を何度も頼ってしまった方、今、改めて頭を下げさせていただきたいと思います。私が見てきた子どもの笑顔はそのような方々に支えられてきたものです。

教師生活を振り返ってみれば、「夢」のように楽しく、「夢」のように短い時間だった気がします。お世話になった方、御迷惑をおかけした方、そしてなにより私を支えてくれたすべての子どもに、改めて感謝させていただきたいと思います。ありがとうございました。

## 「人」に支えられて

名寄市立智恵文小学校 本 間 修 司



「教育は、人なり」の言葉を胸に昭和60年4月から教職人生が始まりました。初任校は、稚内東小学校でした。

宗谷管内の同期には離島や複式校に赴任した方もおりました。初任研等で情熱をもって子ども

たちと接している話を聞き、自分も負けないぞと鼓舞していました。また、先輩の皆様の実践を見て学んだり、飲食をともにして熱く語り合ったりしたことが初任期の成長に大いに役立ちました。その稚内市を振り出しにこれまで枝幸町、名寄市、富良野市、東川町、中富良野町の6市町村の10校で勤務させていただきました。特に思い出深いのは、唯一中学校に勤務した名寄中です。おかげで9年間の子どもが成長する姿が容易に思い浮かびます。

そんな私を管理職に薦めていただき、教頭として東川第一小から3校。校長として枝幸町問牧小と現任校の学校経営を任せていただきました。子どもたちをチ

ームで育て、保護者・地域の皆様、教育委員会と魅力ある学校づくりに力を尽くしてまいりました。

現在、勤務しております智恵文小は、智恵文中と小中一貫教育を平成30年度から始め、共通の「目指す子どもの姿」「教育目標」を設定し、小中一貫合同会議や合同運動会・体育祭などの取組を進めています。さらに、令和6年に小・中が統合して義務教育学校になります。昨年からのような学校にするか開校準備委員会や小中一貫合同会議で準備を進めています。開校準備委員会では、現智恵文中校舎に増築される職員室・前期課程の教室等の基本設計・実施設計と校名について調査・協議してきました。さらに、教職員に見通しをもたせ、1～9年生の教育計画・教育課程の編成に取り組んでいます。

教師としての理想像を追いかけるものの、歩みの遅い自分の姿が常にありました。そんな私を信頼し支えてくれた子どもたち、保護者・地域、教職員、教育委員会の皆様に改めて深く感謝いたします。

終わりになりますが、上川管内校長会の皆様には大変お世話になりました。皆様の今後の御活躍と御健康を願うとともに、上川の子どもの健やかな成長と御活躍を願い、結びといたします。

## ありがとうございました

富良野市立東小学校 山 崎 省 三



教職生活のスタートは、十勝管内の足寄町螺湾小学校でした。学級数4で、私は2年生3名の担任でした。毎日、教科書と指導書を持ち帰り教材研究をしましたが、上手な授業ができませんでした。研究授業やベテラン

の先生の授業を参観させていただき、まだまだ一人前の教師としては力が足りなかったことを痛感させられました。その学校は、保護者や地域と強い連携を図り、豊かな地域素材を活かした独自の学びを進めていました。炭焼きとそれを利用した親子キャンプ、筏作りと筏下り、地域の植生などを調べる自然探検学習、グラウンドにアスレチック遊具を設置しての体力づくりなどでした。これらのいろいろな学びの体験は、その後の教職生活の基盤となった貴重な4年間でした。

2、3校目も小規模・複式校でした。小規模校ならではの地域の方々の結びつきの大切さを改めて確認することとなりました。4校目は大きな学校でした。これまでは一人一人の役割が大きかったのですが、み

んなで協力して進めることを学びました。多くの人と関わり合うこと、目標に向かって磨き合うこと、組織力を高めることなどすべて勉強になりました。

今までの学校には、わくわくするような楽しいものがありました。同僚と互いに知恵を出し合い創り上げる喜び、多くの子どもたちとの学びと笑顔はかけがえない宝物です。そして、どの学校でもたくさんの教職員、保護者、地域の方々との出会いと触れ合いがあり、心を響き合わせられたことは、今、思い出してもとてもよかった経験です。たくさんの失敗もありました。でも、その都度、保護者や子どもたち、地域の方々、仲間にもいつも助けられてきました。その経験があったからこそ、今の自分があるのだと思っています。

代替教諭も合わせて4つの管内で一般教諭で7校、管理職で5校を経験させていただきました。振り返ってみると、無我夢中になって没頭できた良い時間でした。でも、あのときももっとこうすればよかったなあと後悔ばかりです。そんな中で出会ったすべての方々との多様な関わり合いが私自身を大きく成長させていただいたことに心より感謝いたします。大変ありがとうございました。



## 感謝

東川町立東川第一小学校 山田裕司



昭和60年4月、稚内から始まった教職生活は、信じられないくらいの速さで37年を終えようとしています。「退職なんだ。」と、寂しさを感じつつ、なぜか妙な物足りなさも感じている心境です。

これまで4管内10市町10校を経験し、多くの子どもたち、保護者、地域の方々と出会ってきました。おそらく数えきれないくらいの人数でしょう。その誰もが、長い年月を支えてくれた心の恩人であり、宝物であり、財産です。

私は、教師になることが夢でした。きっかけは、小1、2の担任へのあこがれです。その後も、恵まれたのか出会う先生も素敵な人ばかりでした。運よく教師になり思ったことは、自分があこがれた目の前の教師像でした。

結果、そのような教師像には、さすがにたどり着きませんでした。それでも、ただひたすらに向き合い、誠意をもって取り組んできた日々は無駄ではなかったように思います。かつての教え子と昔話を語り合った

り、保護者、地域の方々と今でも親友のようにお付き合いできたりすることは、教師冥利に尽きるといっていいでしょう。

また、これまで勤務した学校でも、私を成長させてくれた多くの出会いがありました。初任校では、先輩に、「一人一人を大切に」の人生観をみっちり教わりました。この言葉は、私の経営理念です。2校目では、特別支援教育のノウハウを学び、3校目では、学年主任の難しさを体験しました。4校目では、ミドルリーダーとしての自覚と責任を学び、管理職に進むことになりました。

教頭職は、10年という長い経験を積むことになりました。前半の6年は、職の自覚も足りず、目の前の仕事に手一杯。校長を始め、当時の教職員には本当に迷惑をかけました。後半4年で一番痛感したのは、校長の支えと教職員の学校経営への懸命さです。校長になったのは、この方々に恩返しという思いがあったからでしょう。

校長としては5年間、経営職と自覚し、過ごしました。子どもたちの笑顔、教職員の絶大な協力、保護者・地域の支援、そして、校長会の仲間に幾度も助けられました。本当に恵まれました。心から感謝の思いでいっぱいです。

管内校長会の益々の御発展と校長先生方の御活躍、御健勝を心から祈念します。ありがとうございました。

## 明日は「明るい日」

東川町立東川第三小学校 橋 早智子



昭和60年4月、私の教師人生が始まりました。

土地感のない何も分からない町で、少しずつ「生きる力」を身につけながら、ただ頑張るだけで精一杯の日々でした。

それから37年、多くの方々との出会いや別れ、温かい言葉や激励を込めた厳しい御指導をいただいて、今の私があります。

- ・授業研究と児童理解に力が入った若い頃
- ・校務分掌や学年対応に知恵を絞った中堅時代
- ・短いスパンで各地を異動し、学校経営・運営を任せていただいた管理職の経験…

壁につき当たる度に、支えてくれる人の想いに力をいただき、「いつも元気な私」でいることができました。

そして、「辛い」と思って関わってきたことも、時間が経って、皆「良かったこと」ばかりが思い出されるこの頃です。

- ・教頭研究会の移動中でのミサイル発射の警報音

- ・大きな地震といつまでも続く停電
- ・大雨による浸水土砂崩れで身動きがとれない
- ・大雪で通学路の安全は？
- ・強風で地域の大きな施設に被害が！学校はどうする？

とても不安だったはずなのです。

でも、今思い出すのは

- ・研究会会場でみんなの顔を見てほっとした安堵感
- ・街中の明かりが全部消えた夜の満天の星空
- ・荒天で私の安否を気づかって電話をくれた方々の、電話の向こうの心配顔
- ・「学校は大丈夫？助けに行くかい？」と連絡をくださった地域の方々

安心したことばかり思い出すのです。

最後に勤務した学校は、ずっとコロナ対応の中、残念なこともありました。心配なこともありました。でも、今、遠くに希望の明かりが見えてきたように思います。

「明日は明るい日」

そう信じて、これからも生きていきたいと思えます。

「いつも明るい“橋”」を支えてくださった皆様に心からの感謝とお礼を申し上げます。

## ● 編集後記 ●

本号は御勇退される22名の校長先生方の特集であり、永年の教職生活を振り返っての数々の思い出や万感こもる言葉に強く胸を打たれました。これまでの御活躍に心から敬意を表するとともに御退職後の御多幸を祈念いたします。

本年度もコロナによる影響がありましたが、おかげ様で予定通り3号を発行することができました。発行に際し、玉稿をお寄せいただきました関係各位、御協力をいただきました各市町村校長会、会員の皆様に深く感謝を申し上げます。

今後とも会報を通して、組織活動の強化・充実に努めてまいります。御支援と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

上川管内校長会広報部長 富 居 充 孝

### 【上川管内校長会広報部】

部 長 富 居 充 孝 (士別南中学校)

副部長 小 林 勝 彦 (名寄西小学校)

部 員 田 畑 幹 夫 (布部小中学校)

部 員 加 藤 信 彦 (宇園別小学校)

部 員 林 真千子 (朝日中学校)

